

(1) 個性と魅力を活かすまちづくりの推進

【現状と課題】

瑞穂区の特徴・魅力として思い浮かぶものとしては、山崎川沿いに続く桜並木がまず挙げられるのではないのでしょうか。瑞穂区のシンボルマークも山崎川と花びらをアレンジしたもので、区の木、区の花もサクラであり、サクラは瑞穂区の魅力として、区民に馴染み深いものです。

そして、区内にはパロマ瑞穂スポーツパーク（瑞穂運動場）があり、さまざまなスポーツ大会の会場、名古屋グランパスの本拠地、また、市のスポーツ振興の拠点として、選手や観客が数多く訪れる場所があるのも魅力のひとつです。

さらに、教育施設が多いことが特徴として挙げられます。市内16区で比較すると、瑞穂区内に高校は7校、短大は2校、大学は3校あり、いずれも16区で3番目以内に入る数です。

こうした瑞穂区の魅力や特徴をふまえ、区内に本拠地を置くトップスポーツチームや教育施設と連携し、魅力がよりいっそう輝くまちづくりをすすめる必要があります。

一方、区内には大曲輪貝塚などの遺跡もあり、瑞穂区は太古の昔から人が生活する場所でした。また寺社などの史跡も数多く残されており、明治時代以降からは、区の西部を中心に工場がつくられ、そこで働く人々がその周辺に居住し、西から東へと開発がすすみ、現在の瑞穂区がつくられていきました。地域への愛着を深めるためにも、瑞穂区の歴史を区の魅力として発信していく必要があります。

【指標】

事項	平成30年度	令和元年度（目標）
区民アンケート 「瑞穂区が魅力的なまちだと思う人（※）」の割合	90.5%	90%以上
地元の魅力発見！子どもお仕事体験参加者アンケート 「瑞穂区の新たな魅力を知ることができたと感じた人」の割合	—	90%以上

※「思う」「まあまあ思う」と回答した方

区民アンケートでいただいたご意見

サクラの開花予想に応じてライトアップをお願いします。

名古屋市の文化・教育の中心として、いろいろな催し、区民参加のイベントの充実を望みます。

とても魅力的なまちだと思いますし、区役所の方々が日々取り組んでくださっている様子が伝わってきます。



【主な取り組み】

サクラのまち瑞穂づくり (さくら写真展、山崎川のライトアップなど)

瑞穂区の区の木、区の花であるサクラを通じて区の魅力を発信するため、一般公募による「瑞穂のさくら写真展」の開催やさくらマップの配布、サクラ情報をツイッターやフェイスブックでお伝えします。また、山崎川の夜桜を楽しんでいただけるよう、3月下旬～4月上旬の開花時期にライトアップを行います。

(地域力推進室・土木事務所)



山崎川のライトアップ

名古屋市立大学・越原学園・瀬木学園との連携

区内にある大学等と区役所は、連携協力協定を結んでいます。まちづくりや子育て支援、女性の活躍、健康増進などのさまざまな分野で協力関係をより一層深め、連携した企画を開催するなど文教区としての瑞穂区への愛着を深めるとともに、さらに住みよい、魅力ある瑞穂区をめざして取り組みます。

(総務課・企画経理室・地域力推進室・民生子ども課
・福祉課・保健センター)

岐阜県瑞穂市との連携

新規

防災・産業・観光分野をはじめとした各分野での連携の取り組みをすすめることにより、瑞穂区及び瑞穂市の活性化をはかります。まずは、各種イベント等の機会をとらえて魅力の情報発信、住民の交流を行います。(総務課)



音楽による地域のにぎわいづくり

音楽による地域の にぎわいづくり事業

地域住民・学校・企業などの交流の機会とにぎわいを創出するために、サクラの開花時期など、四季折々の時期に、地域の身近なところを会場とした音楽コンサートを開催します。

(地域力推進室)

地元の魅力発見！ 子どもお仕事体験

区内在住の子どもたちを対象として、区の魅力を感じ、同時に区への愛着を深めていただくために、瑞穂区にゆかりのある企業等において仕事を体験するイベントを実施します。

(地域力推進室)

冊子「瑞穂区の近代」 を活用した魅力発信事業

新規

地域への愛着を深めていただくため、平成30年2月に発行した、明治～昭和初期の瑞穂区の発展の経過を区内4つのエリアに分けて紹介した冊子「瑞穂区の近代」の配付等を通じた魅力発信を行います。(地域力推進室)

なごや学マイスター講座の 開催

まち歩きや区オリジナルのグルメを通して、瑞穂区の魅力を発信する人材を育成することを目的とした「なごや学マイスター講座」を開催します。

(生涯学習センター)

なごや学講座の開催

市民が名古屋に愛着を感じ、誇りに思えるように、名古屋の歴史や文化、産業、自然などの視点から、名古屋をより深く知り、名古屋の魅力を再発見できるようにすることを目的とした「なごや学」の講座を開催します。

(生涯学習センター)



（２）地域とともにすすめるまちづくりの推進

【現状と課題】

区民まつりを始めとした区民との協働によるまちづくり事業は、区民が相互に交流する機会となっているとともに、区民が地域活動に参加する契機となっています。今後、さらに区の特性・魅力を活かしながら、さまざまな年齢層や団体との交流の機会を提供することにより、地域の誰もが、地域の活動に主体的に参加ができるまちづくりをめざしていきます。

また、平成 28 年 9 月に、2026 年アジア競技大会の開催地が愛知・名古屋に決定されました。アジア競技大会は、スポーツの振興や国際交流の促進などさまざまな効果を生み出すと期待されており、そのメイン会場としてパロマ瑞穂スタジアム（瑞穂公園陸上競技場）が予定されています。メイン会場の所在地として、アジア競技大会の開催機運を盛り上げていく必要があります。さらに、パロマ瑞穂スポーツパーク（瑞穂運動場）では、大規模なスポーツ大会や試合が多く開催されており、そこに参加する選手や観客などの来訪者が安心・安全に訪れることができる瑞穂区にしていく必要があります。



【指標】

事項	平成 30 年度	令和元年度（目標）
区民アンケート 「地域の事業やイベントに参加した人」の割合	59.0%	60%以上
区民まつり来場者数	延べ 20,000 人	延べ 20,000 人以上

区民アンケートでいただいたご意見

老若男女問わず参加できるイベントがあれば核家族化であっても地域とのつながりが増えるのではないかなと思います。

高齢化がすすんでいくので町内会のあり方に疑問があります。人数も減り役員をする人も少なくなります。回覧板を回すことも上手にできなくなった時、何か違う形で通知をすることはできないでしょうか。そのうち、組長や町内会長をする人がいなくなると思います。

個人情報を守られる一方で、コミュニケーションの取り方が大変になっています。



【主な取り組み】

瑞穂区民まつり 2019 の開催

区民同士のふれあいを深めるとともに防災意識の向上をはかるため、区の特徴を活かした区民まつりをパロマ瑞穂レクリエーション広場、瑞穂文化小劇場及び瑞穂生涯学習センターにて開催します。また今回は 30 回目の開催となるため、記念イベントを実施します。

(地域力推進室・生涯学習センター)



瑞穂区民まつり

2026 年アジア競技大会に向けた「瑞穂区ジョギングパトロール (ジョグパト)」の推進 (スポーツの推進)

拡充

ジョギングパトロールを通じて、安心・安全な瑞穂区をめざすとともに、区民が気軽にスポーツを行う機会づくりに加え、2026 年アジア競技大会開催へ向けた盛り上げをはかります。今年度は、イベントなどの機会を通じて、この事業の周知をはかっていきます。

※ジョギングパトロール

日頃のジョギング、ウォーキングやペットの散歩などの機会に区民から公募したデザインの缶バッジ・ビブスを身に付けて地域のパトロールを行うことで、地域の安心・安全の向上とスポーツの振興をめざすボランティア活動です。

(地域力推進室)

スポーツイベントの開催

新規

区内地域コミュニティの活性化、区の魅力発信及び区民のスポーツ振興を目的としたスポーツイベントを開催します。

(地域力推進室)

ヤングサポーターみずほの活動の支援

区内 7 校の高校生と意見交換を行い、青少年をまもる運動、区民まつり、安心・安全で快適なまちづくりフェスタでキャンペーンを実施します。(地域力推進室)

町内会・自治会活動への加入促進の支援

地域コミュニティ活性化をはかるため、区役所に町内会・自治会加入ポストを設置するほか、「広報なごや」やチラシで広報することにより、町内会・自治会の加入促進を支援します。

(地域力推進室)

公園愛護会・街路樹愛護会・川を美しくする会の支援

協働により安心・安全で良好な公園・街路樹・河川を維持するとともに、制度・活動事例の紹介や新規設立の呼びかけを行います。

(土木事務所)

街路灯パートナー・まごころ遊具等の普及

多くの法人・個人に地域貢献にご協力いただけるよう、「街路灯パートナー」「歩道橋ネーミングライツパートナー」「まごころ遊具」及び「なごやかベンチ」の制度の普及をすすめます。

(土木事務所)

生涯学習センターで活動している自主学習グループの支援

生涯学習センターで活動している自主学習グループに対して、日ごろの学習・活動成果の還元・発表や仲間づくりなど、グループ活動の発展・活性化の支援をすすめます。(生涯学習センター)



みずほ生涯学習センターまつり 2019 の開催

生涯学習の振興をはかるため、生涯学習センターで活動する自主学習グループの学習成果の発表と、地域住民の方々との交流の場として「みずほ生涯学習センターまつり 2019」を開催します。

(生涯学習センター)



(1) 災害に強い安心なまちづくりの推進

【現状と課題】

南海トラフ巨大地震の発生が懸念されており、人的被害や建物被害など甚大な被害が想定されています。

また、災害は地震だけでなく、台風や近年多発する集中豪雨等による風水害もあり、これらの災害にも対策や備えが必要です。

大規模な災害が発生すると、行政の力だけでは十分な対応はできません。そのため、自分で自分や家族を守る「自助」、市民や事業者が助け合って地域を守る「共助」、行政が市民や事業者の活動を支援し、安全を確保する「公助」により被害を少しでも軽減するため、行政による災害対策の充実をはかるとともに、区民一人ひとりの、さらには地域の中で防災意識の向上をはかる必要があります。

◇南海トラフで地震が発生する可能性
(算定基準日：平成30年1月1日)

地震の規模	M8～M9 クラス
地震発生確率	30年以内に、70%～80%

地震調査研究推進本部(文部科学省に設置)地震調査委員会資料より

◇平成30年度 自助力向上の促進事業
瑞穂区実施状況

回数	234回
人数	11,030人

建物の耐震化や家具等の転倒・落下防止などの対策により、
かなりの被害を軽減することができます。



【指標】

事 項	平成30年度	令和元年度(目標)
指定避難所に関する区民向けイベント (訓練・研修・セミナー等)の実施回数	15回	16回
ぼうさいカフェ参加者アンケート 「防災に関心をもった」と回答した方の割合	97.1%	100%

区民アンケートでいただいたご意見

災害についての取り組みや住民への周知等、不安があります。

避難所の充実など、災害に強いまちづくりをしてほしい。

ハザードマップを駅などの見やすいところに展示し、避難所などがわかりやすく伝わるようにできれば良いと思います。



【主な取り組み】

災害応急対策図上訓練の実施

名古屋市災害対策本部瑞穂区本部及び各区隊等の連携及び災害対応力の向上をはかるため、区内の公所（署）が同じ想定のもと図上訓練を実施します。
（総務課・消防署）

指定緊急避難場所の啓発

「ナゴヤ避難ガイド」等を活用し、災害の種別に応じた指定緊急避難場所及び避難方法の啓発をはかります。
（総務課）

指定避難所開設・運営訓練の実施

発災時にスムーズな指定避難所運営ができるよう、行政機関や施設管理者と協力しながら、地域の指定避難所運営リーダーを中心に実施する学区の指定避難所開設・運営訓練をすすめます。
（総務課）

医療救護所訓練の実施

瑞穂区の医師会等が主催する訓練に参加し、災害時に医療救護所となる市立中学校において開設及び救護活動の訓練を実施します。
（総務課・保健センター・消防署）

指定避難所運営リーダーの養成

発災時に地域のみなさまで円滑に指定避難所を運営していただけるよう、指定避難所運営リーダーの育成に取り組むとともに、より実践的なリーダーを育成するため、研修に指定避難所開設・運営訓練を取り入れることで、地域における防災力のさらなる向上をはかります。
（総務課）

ツイッターを利用した指定緊急避難場所及び指定避難所の開設状況の発信

災害時の指定緊急避難場所及び指定避難所の開設状況をツイッターで発信します。
（総務課）

助け合いの仕組みづくりの推進

高齢者や障害者など災害時に支援が必要な方々について、平常時から地域での安否確認や支援の方法などを話し合い、災害に備える「助け合いの仕組みづくり」の取り組みを支援します。
（総務課）

落合橋の耐震補強の推進

落合橋は、緊急輸送道路に指定されている県道岩崎名古屋線の山崎川に架かる重要な橋です。その落合橋において、耐震補強工事を実施します。
（土木事務所）

ぼうさいカフェの実施

子どもとその保護者を対象に、防災に関するわかりやすい講演や体験型ワークショップを開催し、気軽に楽しみながら防災について学べる場を提供することで、家庭における自助力や地域における防災力の強化につなげます。
（総務課）

地域における防災対応力の向上

小学校区単位で組織された防災安心まちづくり委員会を中心とした住民参画型の防災活動をすすめるとともに、町内会単位によるきめ細かい実践的な防災訓練の実施を引き続きすすめ、地域における防災対応力の向上をはかります。
（消防署）

家庭における防火防災対策の推進

自助力向上の促進事業により家具の固定、非常持出品の準備など、家庭で行う防災対策の普及促進をはかるとともに、設置から10年を経過した住宅用火災警報器の取り換えが行われるよう防火対策の推進をはかります。
（消防署）

防災をテーマとした講座の開催

地震や豪雨・台風などといった自然災害について、防災・減災のために地域や家庭でできる備えについて学び、防災に対する区民の意識向上と備えをすすめていくための講座を開催します。
（生涯学習センター）

(2) 安全なまちづくりの推進

【現状と課題】

瑞穂区は、犯罪や火災、交通事故などが他区より少なく、比較的安全な区です。

犯罪については、平成 30 年の刑法犯認知件数は前年と比べ減少し、平成 26 年から 5 年連続で 16 区中 1 番少ない区となっています。

しかしながら、住宅対象侵入盗は平成 30 年に 44 件発生し前年に比べ 15 件増加しており、また還付金詐欺などの特殊詐欺が 17 件発生し、引き続き対策が必要な状況です。

火災については、平成 30 年の火災発生件数は 18 件で 16 区中 3 番目に少ない区となっています。

交通事故については、平成 30 年の人身事故件数及び死傷者数は 16 区中 1 番少ない区となっています。しかし人身事故件数及び死傷者数が減少している中、平成 30 年も死亡事故が発生し、2 人の尊い命が失われました。平成 26 年から 30 年までの交通事故による死者数 8 人のうち 3 人は高齢者となっています。

犯罪、交通事故のこうした状況を地域に周知するとともに、状況に応じた効果的なパトロールや啓発活動などを行っていく必要があります。

◇瑞穂区刑法犯認知件数

年	26	27	28	29	30
件数	956	916	700	714	678

発生地域別に集計したもの（警察本部生活安全総務課で集計）

◇瑞穂区交通事故死者数

年	26	27	28	29	30
人数	1	2	0	3	2

【指標】

事項	平成 30 年度	令和元年度（目標）
青色回転灯パトロール実施回数	41 回	45 回以上
交通安全啓発活動実施回数	61 回	65 回以上

区民アンケートでいただいたご意見

空き巣、ひったくり、自動車盗難、自転車泥棒等を警察の取締りと協力しながら減少させ、安心して暮らせるまちづくりに力を入れてほしい。

歩きタバコ、ながらスマホの方をよく見かけます。本当に危険で迷惑でもあるので、こういった行動をやめさせるような取り組みをしていただけるとありがたいです。

街路灯のLED化やセキュリティカメラの増設等をすすめてほしい。



【主な取り組み】

交通安全対策の推進 (啓発の実施、交通安全施設の設置)

各小学校へ交通指導員を派遣し交通ルールなどの指導を行います。飲酒運転の根絶や自転車の安全利用促進などを重点として啓発活動を実施し、交通ルールの厳守とマナーの向上、安全意識の高揚をはかります。

このほか、街路灯や区画線（白線）などの交通安全施設の設置・維持管理を実施します。特に、「ゾーン30」に指定された区域においては、区域入口のカラー化・区画線の明確化などの安全対策をすすめます。

※ゾーン30

生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的に、公安委員会がゾーンを定め時速30kmの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する車両の抑制をはかるもの

(地域力推進室・土木事務所)

防犯対策の推進

小学校通学路や街頭犯罪多発地域を中心に、警察署等と連携してパトロールを継続して実施します。また、防犯キャンペーンや啓発活動、防犯に関する地域での取り組みを推進します。

(地域力推進室)



交通安全対策の推進

歩道のバリアフリー化 の推進

横断勾配がきつい歩道について勾配改善を実施し、歩道に視覚障害者誘導ブロックの設置を行うことで、歩道のバリアフリー化をすすめます。

※横断勾配

歩道を歩く際の横方向（左右）の勾配のこと

(土木事務所)

瑞穂区マスコットキャラクター「みずほっぺ」を活用した 安心・安全なまちづくりをすすめる啓発事業

交通安全や防犯等のキャンペーンの実施に際し、瑞穂区マスコットキャラクター「みずほっぺ」を活用して、安心・安全なまちづくりをめざす取り組みを、より親しみやすく身近に感じていただけるような形で行います。

(地域力推進室)

2026年アジア競技大会に向けた「瑞穂区
ジョギングパトロール（ジョグパト）」の
推進（安心・安全なまちづくり）

再掲
→P7 拡充



(3) 快適な環境づくりの推進

【現状と課題】

瑞穂区では平成18年度に「瑞穂区エコライフのまちづくり宣言」を行い、以降環境先進区をめざした取り組みを実施し、環境意識の向上をはかってまいりました。その中の取り組みの一つにあるように「ごみも資源も、元から減らす」発生抑制の視点で取り組みをすすめ、ごみの排出量を減らすことが重要です。

また、犬や猫に関しては、飼主の方への責務やマナー向上につながる啓発を実施し、危害・迷惑発生防止に取り組んでまいりました。区民のみなさまに、引き続き、犬や猫の愛護や適正な飼い方についての関心及び理解を深めていただくため、効果的な事業を実施し、快適な環境づくりをすすめる必要があります。



【指標】

事項	平成30年度	令和元年度(目標)
区民アンケート 「以前に比べ犬のふんを放置する人を見かけなくなった人(※)」の割合	63.5%	70%

(※)「見かけなくなった」、「あまり見かけなくなった」と回答した方



区民アンケートでいただいたご意見

ごみ出しルール、ペット等への対応をお願いします。また、騒音など、マナーの大切さをさまざまな機会を通じて区民へアピールしてください。

河川の清掃を皆で協力して生き物がたくさん来てくれるよう、また、私達も散歩道が楽しくなるよう、ごみ、缶等なくなるようにしたいです。

猫のふん害の対策についての情報提供や忌避装置の貸出をしているとは知りませんでした。ホームページだけでなく広報に載せてもらえると嬉しいです。



【主な取り組み】

「環境デーみずほ 2019」 の開催

区役所を中央会場として、楽しく環境について学べるイベントを実施するほか、区内全域で清掃活動などに取り組みます。

(地域力推進室)

新瑞橋クリーン作戦の推進

美化推進重点区域である新瑞橋バスターミナル周辺の清掃活動を、関係公所や関係団体との連携をはかりながら実施します。

(地域力推進室)

河川の清掃活動

一般社団法人名古屋建設業協会の協力により、山崎川の清掃及び河川に関する情報収集を行い、細やかな河川の維持管理を実施します。

(土木事務所・パロマ瑞穂スポーツパーク)

愛犬クイズラリー山崎川の開催

犬の散歩が多い山崎川沿道で、犬の飼い方マナーアップに関するクイズラリーを開催し、ウォーキングを通じてマナーアップをはかります。ゴール地点では犬に関するブースを用意し、愛犬についての相談に対応します。(保健センター)



愛犬クイズラリー

犬や猫の適正な飼い方の啓発推進

犬や猫による迷惑発生防止活動の一環として、立て看板や啓発ラミネートの配布、忌避方法の紹介や超音波忌避装置の貸出、飼主への個別指導等を行います。また、災害時のペット対策のため、ペット同行避難訓練や災害講習を実施します。

(保健センター)

ごみ減量、ごみ・資源の分別、 適正排出の促進

電話での問合せ、窓口対応時のほか、環境デー、区民まつりを始めさまざまな地域活動の機会並びに市公式ウェブサイトやスマートフォンなどの情報端末向けアプリによる情報発信により、啓発をすすめていきます。

(環境事業所)

ごみ・資源の収集における 区民サービスの向上

丁寧で確実なごみ・資源の収集に取り組みます。また、ひとり暮らしの高齢者や障害者等の世帯で、ごみ・資源を所定の場所へ出すことが困難な世帯を対象に、玄関先等で収集する「なごやか収集」を実施します。

(環境事業所)

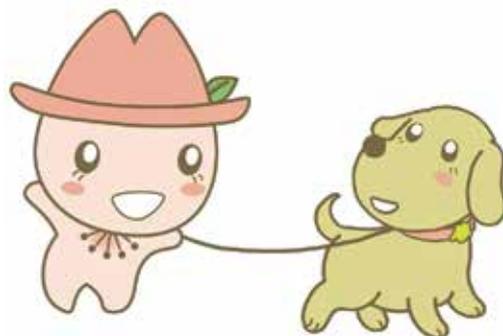
不法投棄の防止

廃棄物の不法投棄を防止するため、要注意箇所の巡回パトロールや夜間パトロールを実施します。

(環境事業所)

山崎川の水辺の生き物観察教室 などの環境イベントの開催

山崎川親水広場における水辺の生き物観察教室をはじめ、地域の集まりやイベントなどさまざまな機会をとらえて、環境学習を推進します。(南区公害対策室)



(1) 福祉活動の推進

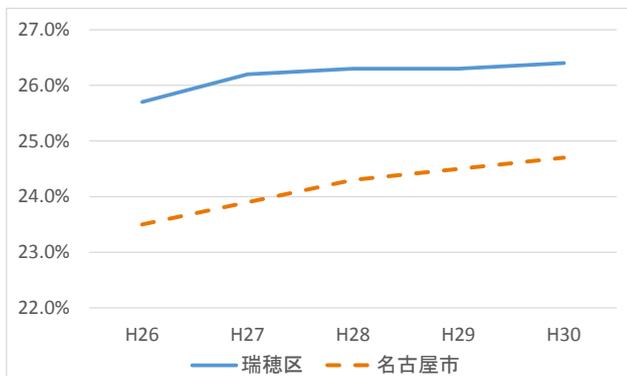
【現状と課題】

瑞穂区の高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）は名古屋市平均より高く、高齢化が進んでいます。ひとり暮らし高齢者数も年々増加傾向にあり、後期高齢者（75歳以上）の割合も増加しており、地域ぐるみの見守りや支援が必要です。

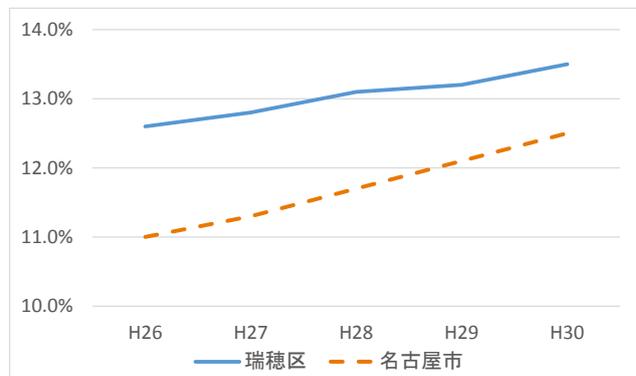
また、平成31年4月に「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」が施行され、その理念の普及・啓発に取り組んでいます。

今後も障害を理由とする差別をなくし、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるよう引き続き啓発につとめます。

◇瑞穂区における高齢化率の推移



◇瑞穂区における後期高齢者の割合の推移



※名古屋市年齢5歳階級別人口（全市・区別）より（各年10月1日現在）

【指標】

事項	平成30年度	令和元年度（目標）
みずほフェスタにおける来場者数	775人	900人
地域支えあいマップづくりに取り組んでいる町内数	239/249町内 11学区	245/249町内 11学区

区民アンケートでいただいたご意見

少子・高齢化や地域コミュニティの希薄化といった変化をふまえたまちづくりが必要です。

高齢者が一人で立ち寄り、暇をつぶせる、会話を楽しめる場所があればとても助かります。

地域包括ケアシステムについて知らない人も多いと思うので、もっと広がってほしいです。



【主な取り組み】

児童向け民生委員・児童委員活動の広報

新規

児童やその保護者などの若い世代に対して、民生委員・児童委員の活動を紹介する冊子を作成し、制度や活動内容について理解を深めていただきます。

(民生子ども課)

みずほフェスタ' 19 の開催

区民に地域包括ケアシステムを普及啓発するため、区役所をはじめ医療・福祉関係者が協働して企画・運営する福祉イベントを開催します。開催期間中は、講演会やシンポジウム、各種講座を開催し、地域包括ケアシステムを一人でも多くの区民に知っていただくことをめざします。

(福祉課・保健センター・区社会福祉協議会)

在宅医療・介護に関する出前講座の開催

ご自分がどう暮らしたいか、人生の終活から終末期までの在宅医療や介護について区民に学んでいただく出前講座を開催し、地域包括ケアを推進します。

(福祉課)

老人クラブの会員増への支援

老人クラブの会員増をめざして、広報なごやへの記事掲載(老人クラブの活動のPR等)をはじめ、クラブ行事を実施する際にPRチラシの配布や加入相談を行うなどの支援をしていきます。また、瑞穂区老人クラブ連合会の愛称である「なごやかクラブ瑞穂」の普及をはかります。

(福祉課)

みずほっぺあんしん情報シートの普及

かかりつけ医や緊急連絡先等を記入した「みずほっぺあんしん情報シート」を民生委員を通じ65歳以上のひとり暮らし高齢者及び75歳以上の高齢者のみの世帯に配付します。さらに、日中や夜間に独居となる高齢者で希望する方にも配付します。

(福祉課・消防署)

地域包括ケアの推進

地域包括ケアシステムの啓発用パンフレットを活用して、理解の促進につとめます。また、連携協力協定を結んでいる大学の学生等に対し、認知症サポーター養成講座を開催し、若い層への啓発にもつとめます。

(福祉課・保健センター・区社会福祉協議会)

障害を理解し、お互いに助け合う地域づくりの推進

地域でも意識のバリアフリーの向上が進むよう、瑞穂区障害者自立支援連絡協議会と連携し、さまざまな障害への理解に向けた啓発につとめます。また、障害者の就労支援の一環として、区役所での授産製品の販売を支援します。

(福祉課)

ご近所での見守り・支えあい活動の推進

「地域支えあいマップづくり」を通して高齢者等を見守る「ふれあいネットワーク活動」をさらに推進するとともに、マップづくりに取り組んでいただく町内数を増やします。また「地域支えあい事業」の実施学区を増やし、高齢者等の個別支援活動の充実をはかります。

(区社会福祉協議会)

瑞穂区マスコットキャラクター「みずほっぺ」イラスト入り医療情報カードの配付

いざという時に安心して受診していただけるよう、休日・夜間に受診可能な医療機関の情報が掲載されたカードを医療証とともに配付します。

(保険年金課)

福祉ボランティア活動の推進

区社会福祉協議会ボランティアセンターで、ボランティア活動に関する相談、コーディネート等を推進します。また、各種ボランティア体験講座や養成講座を開催し、ボランティア活動の普及につとめます。

(区社会福祉協議会)

福祉会館事業の実施

生きがいづくり・健康づくり・仲間づくり・介護予防等を目的に、趣味や各種講座の開催、介護予防事業・入浴サービス等を実施します。また、児童館との共催で、子どもと高齢者との交流事業を行います。

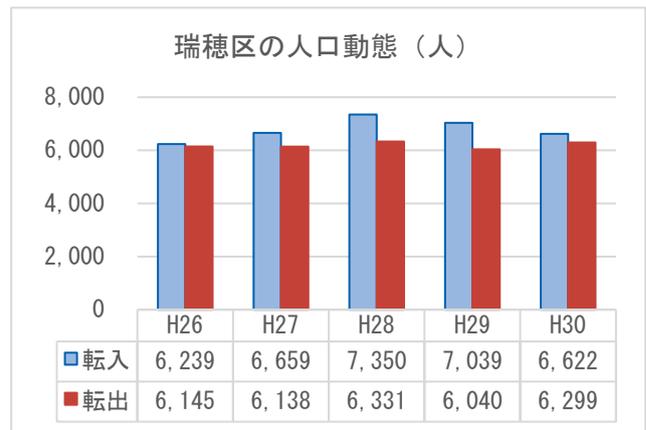
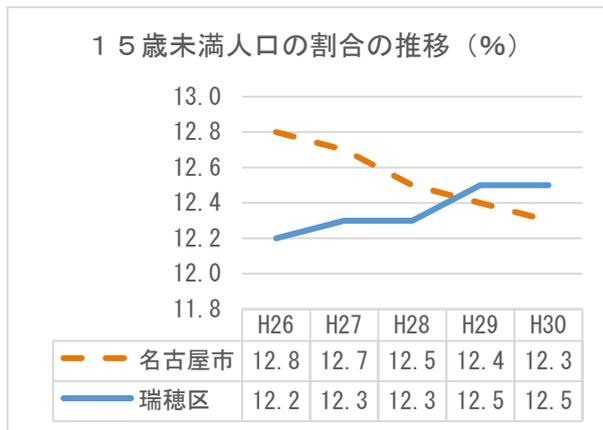
(区社会福祉協議会)

(2) 子育て支援の推進

【現状と課題】

名古屋市では少子高齢化の傾向が続いています。そのなかで、瑞穂区においては、高齢化が進行している一方、区外からの転入者が区外への転出者を上回る状況が続いていることなどにより、15歳未満人口の割合が名古屋市の平均よりも高く、子育て世代に注目されている地域といえます。

保護者に対して仲間づくりや相談の場を提供することにより、子育ての不安感や孤立感を和らげ、保護者が子どもと十分に向き合い、子育てを楽しむことができるよう、地域全体で子どもの育ちを支えていく必要があります。



※各年 4月1日現在
 ※割合は年齢不詳を含まない人口総数を分母としています。
 名古屋市年齢5歳階級別人口（全市・区別）より

※各年 前年10月～当該年9月
 瑞穂区の人口動向調査より

【指標】

事 項	平成30年度	令和元年度（目標）
さくらひろば参加者の満足度	84.5%	90%
オレンジリボン認知度	37.1%	40%
子育て教室が役に立ったと思う人の割合	—	80%

区民アンケートでいただいたご意見

子育てのしやすいまち、虐待ゼロのまちをめざしてほしい。

保育所の空き人数がボーダーラインをホームページ上で公開し、来所せずつにわかるようにしてほしいです。

子育て世代の横のつながりが少なくなっているのので、区を挙げてまつりや教室等のイベントをやってもらい、子どもを育てやすい区にしてほしいです。



【主な取り組み】

児童虐待のないまちづくりの推進

拡充

5月と11月にオレンジリボンキャンペーンとして、区内の大学と連携した街頭活動のほか、親子向けの演劇会などのイベントを開催し、児童虐待防止の啓発を行います。また、地域での見守り活動の充実や親支援プログラムの実施などを通して、児童虐待の未然防止をはかります。（民生子ども課）



オレンジリボンキャンペーン

瑞穂区子育てサロン「さくらひろば」の開催など 子育てしやすいまちづくりの推進

子育てしやすいまちづくりをめざし、区内の子育て支援者と協力して実施している子育てサロン「さくらひろば」を引き続き開催するとともに、区内大学とも連携して子育てサロンを開催する等、サロン内容の充実をはかります。また、「さくらひろば」及び地域の子育てサロンで、保健センターの保健師・栄養士・歯科衛生士が出張子育て相談を行います。さらに、区独自に対象を拡大して実施している主任児童委員等による「赤ちゃん訪問」など、育児に対する不安解消・子育て家庭の孤立防止のための取り組みをすすめます。（民生子ども課・保健センター）



さくらひろば

待機児童対策の推進

新規

保育所等の利用を希望する保護者などに対して説明会や相談会を開催し、多様な保育サービスの内容や幼稚園等の情報などを提供することにより、個々のニーズに即したきめ細かな対応を行っていきます。（民生子ども課）

子育て情報の発信

「瑞穂区子育てマップ」を更新し、赤ちゃん訪問の機会を中心に配布するほか、瑞穂区子育てネットワーク「さくらっこ♪」と協力して、区内の子育て情報を発信します。
※「瑞穂区子育てマップ」は瑞穂区ウェブサイトでご覧いただけます。（民生子ども課）

発達年齢に合わせた 子育て教室の開催

拡充

子育て中の保護者に対して、子どもの発達年齢に応じた正しい知識の普及をすることで、育児不安の軽減や乳幼児の健全な成長を支援します。（保健センター）

妊娠期からの切れ目のない 支援の充実

妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実のため、保健師等がすべての妊産婦等の状況を継続的に把握し、妊産婦が必要な子育て支援施策を円滑に利用できるような情報提供していきます。また、必要に応じて相談・助言を行います。（保健センター）

児童館事業の実施

遊びを通じた体験・交流を基に子どもの主体性・自主性・社会性を育み、子育て支援の拠点として子と親の育ちの支援につとめます。また、移動児童館の実施や、福祉会館・地域の専門機関と協働した高齢者や地域住民との交流の充実につとめます。（区社会福祉協議会）

(3) 健康づくりの推進

【現状と課題】

瑞穂区は、平成 21 年 3 月に健康づくりのボランティアグループ「健康ささえ隊」を結成し、自宅近くの公園やコミュニティセンターで「みずほ体操」を実施しているほか、健康づくりのためのさまざまな取り組みを行っています。今後は、こうした取り組みを効果的に PR することにより、幅広い世代の方々が健康に対する関心を持てるようにすることが必要です。



また、胃がん・大腸がん検診、乳がん検診を実施しています。なかでも乳がんは子育てや介護、仕事など女性として一番忙しい時期にかかりやすい病気であり、罹患率・死亡率も年々増加しています。区民に身近な場所に出向いて検診を実施することにより、多くの方に受診していただくことが必要です。

【指標】

事 項	平成 30 年度	令和元年度（目標）
「健康づくり会場」等の参加者数	延べ 41,154 人	延べ 42,000 人
区民アンケート「みずほ体操を知っている人（※）」の割合	19.2%	20%

※「知っている」「聞いたことはある」と回答した方



区民アンケートでいただいたご意見

老若男女が安全で安心して健康に生活できることを期待します。

瑞穂区民としてみずほ体操があるのはとても誇らしく思っています。動作が多すぎて一つの動作を覚えきらないうちに次の動きになり、全て半端なうちに終わってしまうため、もう少し一つ一つの動きをしっかりと終えてから次の動きに移ることができるようになればと思っています。



【主な取り組み】

みずほ健康づくりマップによる健康づくりの普及（区役所・保健センター・土木事務所の連携）

身近な場所で健康づくりができるよう、区内の自主的な健康づくりの場の情報をまとめた「みずほ健康づくりマップ」を区役所や保健センター等で配布します。
（保健センター・地域力推進室・土木事務所）



みずほ健康づくりマップ



健康ささえ隊

みずほ体操の普及と健康ささえ隊の活動支援

さまざまな保健センター事業や広報媒体を通して「みずほ体操」や「健康ささえ隊」の活動を紹介します。また、区内 21 か所の「健康づくり会場」で活動する「健康ささえ隊」が、地域に浸透し、発展するよう、活動を支援します。
（保健センター）

高齢者サロン等における介護予防の推進と活動支援

地域で開催されている高齢者ふれあいサロンや高齢者ふれあい給食会等に、保健センターの保健師・管理栄養士・歯科衛生士等が出向き、健康相談や健康講話を行い、介護予防を推進するとともに、高齢者サロン等の活動を支援します。
（保健センター）



みずほ体操

乳がん検診の実施とがん検診のPR強化

30歳代から増加し始め50歳前後にピークを迎える乳がんについて、利便性の高い場所での出張検診を実施し、早期発見・早期治療につなげます。また、同時に胃がん・大腸がん検診などのPRを行い受診率の向上につとめます。
（保健センター）

乳幼児期の歯の健康づくりの推進

幼稚園・保育所における集団で行うフッ化物洗口の実施園を増加させ、区内の4・5歳のう蝕（虫歯）有病者率の減少をはかります。また、瑞穂区歯科医師会・歯科衛生士会とともに開催する「歯と口の1日健康センター」のPRにつとめ、無料で乳幼児の歯科検診・相談・フッ素塗布等を実施します。
（保健センター）



4

みなさまに満足いただける区役所づくりをすすめます

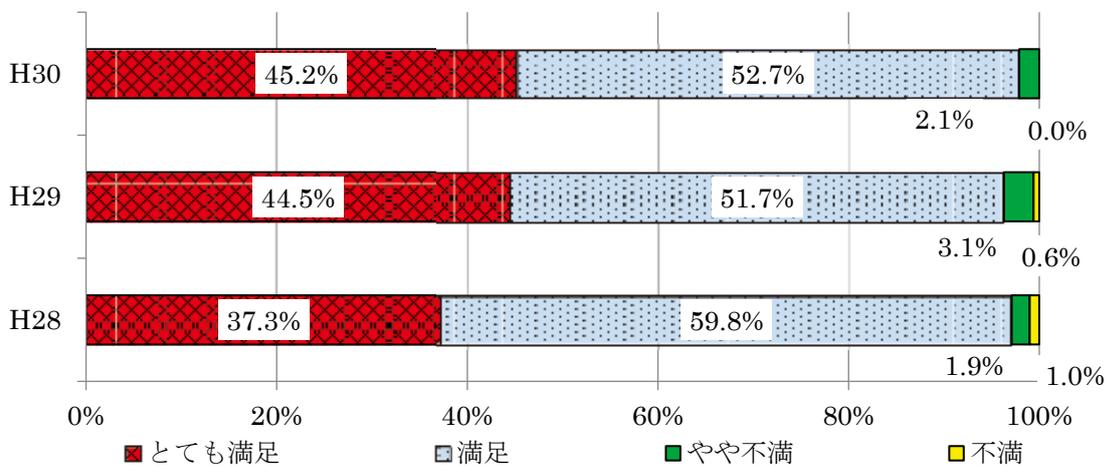
(1) 快適な窓口サービスの提供

【現状と課題】

平成30年度に実施した窓口アンケートでは、窓口サービスに対する総合満足度が“とても満足”または“満足”と感じられた区民の方の割合が、97.9%と高い水準にあります。

一方で、自由意見では「説明が分かりにくい」や「待ち時間が長い」などの意見が寄せられています。

◇窓口サービスに対する総合満足度の三カ年比較



※平成28年～平成30年度 さわやか市民サービス運動「窓口アンケート」実施結果より
数字は小数点以下第二位を四捨五入したもの

【指標】

事項	平成30年度	令和元年度（目標）
窓口サービスに対する総合満足度	97.9%	99%
わかりやすい説明についての満足度	97.3%	98%

区民アンケートでいただいたご意見

最近区役所の職員の方々がとても親切で心くばりがよく嬉しく思っています。

受付番号札発券機は待っている間、他のこともできるのでありがたいです。

区役所の手続きは市民にはわかりにくく面倒なことでもあるので、笑顔で対応していただけて気持ちになると思うのでお願いします。



【主な取り組み】

お客様満足度向上・区役所サービス向上を めざした取り組みの実施

拡充

窓口説明力やコミュニケーション能力の向上及び事務処理誤りの防止に重点を置いた職員研修などを実施して、職員全体の接遇・事務処理対応のレベルアップをはかり、お客様の満足度のさらなる向上につとめます。

(全課)

受付番号札発券機による窓口環境の改善

市民課に受付番号札発券機を設置し、立ったままお待ちいただくことの解消につとめます。

(市民課)

おもてなし向上事業

瑞穂区マスコットキャラクター「みずほっぺ」をデザインに取り入れた椅子カバーを1階待合スペースに設置し、待合フロアを明るい雰囲気にはちます。また、「みずほっぺ」を用いた瑞穂区オリジナル婚姻届・出生届を配布するとともに、婚姻届を提出される際に自由に記念撮影できるよう1階総合案内横にメモリアルボードを設置するなど、満足いただける区役所づくりにつとめます。

(市民課・保険年金課)

ボランティア清掃の実施

毎月定例的に職員が区役所周辺の歩道を中心に清掃を行い、お客様に気持ちよくご利用いただけるようつとめます。また、区内一円にわたって、保健センター、土木事務所、環境事業所、消防署、社会福祉協議会などの区内の官公所(署)等とも連携してボランティア清掃を実施します。

(全課)



瑞穂区オリジナル婚姻届・出生届

正確で迅速な証明書交付事務

各種証明書類を正確で迅速に発行・交付します。また、混雑時は受付窓口を増やすなどにより待ち時間の短縮をはかります。

(市民課)

各種証明取得のための 便利な窓口サービスの案内

居住区以外の区役所や開庁時間外でも住民票の写しなどの証明書等が取得できる窓口サービスの案内や、日曜窓口の開催日や窓口混雑情報などの広報をすすめる、利便性の向上をはかります。

(市民課)

フロアサービスの実施

庁舎案内や届書記載補助などを行うフロアサービス員・福祉コンシェルジュを配置し、受付時間の短縮など窓口サービスの向上をはかります。

(総務課・市民課・福祉課・保険年金課)

保健予防課の一部窓口移設

新規

精神障害者福祉や難病等の申請の窓口を保健センターから区役所庁舎内に移設し、転入時の手続きや障害者医療費助成の制度利用にあたり、利便性の向上をはかります。

(保健センター)

(2) 広報・広聴の充実など

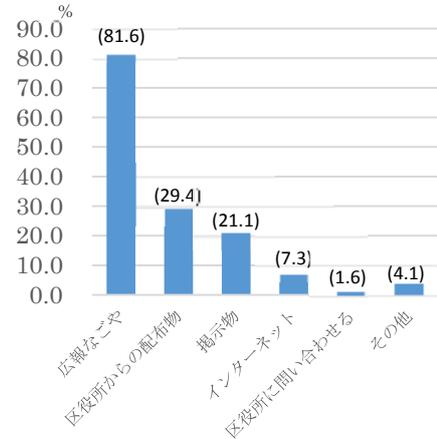
【現状と課題】

現在、瑞穂区では広報なごや、区ウェブサイト、情報サテライト（地下鉄瑞穂区役所駅構内に設置）、行政情報モニター（1階待合スペースに設置）等を利用して区民のみなさまへの情報発信を行っています。しかし、各種イベントや区政の取り組み内容など、区民における認知度が十分であるとは言えず、更なる広報の充実が必要であると考えています。

そのため各戸配布の「広報なごや」については、情報を整理し、見やすい紙面づくりに引き続き取り組みむとともに、多様な媒体での情報発信のツールを充実するため、区公式ツイッターやフェイスブックの更新を積極的に行い、情報の量的・質的な充実をはかっています。

また、広聴活動については、より良い瑞穂区をめざしていくため、継続的に区民ニーズを把握していく必要があることから、区民のみなさまのご意見をお伺いするために地域懇談会や区民アンケート等を実施しています。

◆区役所の事業・行事・お知らせなどの情報をどのようにして（どの媒体から）入手していますか（複数回答）



（平成30年度瑞穂区区民アンケート結果より）

【指標】

事項	平成30年度	令和元年度（目標）
区ウェブサイト総ページアクセス数 （トップページを含む全てのページ）	421,431 件	430,000 件以上
区公式ツイッターのフォロワーの数	1,550 件	1,700 件以上

区民アンケートでいただいたご意見

広報なごやはとても良い情報誌だと思います。その中の瑞穂区の行事や案内などのページはいつも見て活用しています。

インターネットなどを活用し、幅広い年代に取り組みや各種制度がわかりやすくなると良いと思います。

区民にもっと周知してもらえるような工夫があると良いと思いました。



【主な取り組み】

広報の充実

広報なごや・区ウェブサイト・行政情報モニター・瑞穂区役所駅構内の情報サテライトや掲示板等を活用するとともに、ツイッターやフェイスブックを活用して積極的な広報を行います。また、瑞穂警察署と連携して、防犯や交通安全の情報をツイッター等で広報します。

(地域力推進室・企画経理室)

広聴事務（地域懇談会等）の実施

区長をはじめとする区内公所（署）長や関係局職員が各学区へ順次出向いて、地域の方と直接意見交換する地域懇談会などにより、行政についての広報・広聴の充実をはかります。

(地域力推進室)

区政への参画の推進

区民会議を実施し、区の将来の方向性などに関して意見交換を行うなど、区民のみなさまの区政への参画をすすめます。

(企画経理室)

区民ニーズの把握

区民アンケートなどにより、区民のみなさまの考えやご意見を把握し、今後のまちづくり、区役所づくりに活かします。

(企画経理室)

区内の官公所（署）の連携

区における総合行政の推進をはかるため、区内の官公所（署）長等で構成する区政推進会議を実施し、より一層の連携を深めます。

(企画経理室)

区まちづくり基金の設置

より安心に、より健やかに、より住みやすいまちをめざし、みなさまの想いを生かして区のまちづくりをすすめるため、区まちづくり基金を設置しています。いただいた寄附金は、ご希望の用途に沿うさまざまな事業に活用してまいります。
※平成 30 年度の瑞穂区への寄附金実績は 2 件 1,100,000 円です。

(企画経理室)



区民会議

明るい選挙の推進運動

「私たちの一票が正しく投票されること、同時に、国民一人ひとりの政治に対する関心と意義を深めていく」という、明るい選挙の推進運動の趣旨に基づき、若者から高齢者まで地域に根ざした啓発活動を継続してすすめていきます。

(総務課)

瑞穂土木だよりの発行、名古屋市ウェブサイトへの掲載

「瑞穂土木だより」を年 2 回発行するとともに名古屋市ウェブサイトへ掲載し、より親しまれる土木事務所をめざします。

(土木事務所)



名古屋市緑政土木局
直営補修班イメージキャラクター
どりょくん

※区民アンケートでいただいたご意見について

平成 30 年度瑞穂区区民アンケート調査において寄せられたご意見から抜粋・要約したものです。

アンケート調査の概要

調査期間：平成 30 年 7 月 25 日～平成 30 年 8 月 7 日

調査対象：瑞穂区に居住する満 18 歳以上の区民 2,000 人（無作為抽出）

回答数：調査票 934 件（回答率 46.7%）

設問内容：平成 29 年度の区政運営方針の各施策について、今後力を入れていくべきか 等

